

日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（長野県）

2019年10月15日(火)

活動メンバー:小原真理子・高田昭彦・長谷川美智子

1. 活動の概要

活動日時:令和元年 10月15日(火)9:50~24:00

活動場所:長野県飯野市(地区)

支援目的:先遣隊活動

調査地区の特性:長野県北信地方。飯野市の人口総数 19,820 人; 世帯数 7,349 世帯(2019年9月1日現在、飯山市 HP)。2018年の高齢化率は、長野市 29.1%、飯山市 37.0%。飯山市は長野県内でも最も低い千曲川沖関地に広がる飯山盆地を中心に西に関田山脈・東に三国山脈が走る南北に長い地形をもち、南西には斑尾高原、北西部には鍋蔵山、東部には北竜湖などがあり多くの自然資源に恵まれた地となっています。主要交通網は国道 117 号線、292 号・403 号が市内を走っている。平成 27 年には 3 月には北陸新幹線が金沢まで延伸し、北陸新幹線飯山駅が開業した。

飯山市は豪雪地帯であり、水田単作で米食味コンクールに国際大会入賞となる良質米の産地地域である。冬期間の農業にはきのか栽培、アスパラガス、キュウリなどがある。

活動日の状況:台風19号の被災後、4日目。

天気は、曇、最高気温 17 度、最低気温 15 度。風が冷たい。台風 19 号により千曲川が決壊し、飯山市の人的被害は軽症者が 1 名。家屋被害は、床上浸水 424 戸、床下浸水 218 戸であった(2019年10月16日現在)。交通網は在来線で長野駅から森宮野原駅、新幹線で長野から上越妙高で終日見合わせとなっているため、通学通勤に影響が出ている。上水道は平常通り使用できるが、10月15日市内の一部地域で行われていた下水道処理場施設の復旧工事が終了し、使用制限が解除された。また、大字照岡の広範囲で発生していた停電は10月14日解消された。産業被害・公共被害については調査中である。

2. 活動の実際

時間	活動の内容
8:50	清泉女学院集合 ○清泉女学院の教員の方と情報交換 ・大学側は教員で長野市役所や長野市の病院の状況を確認していく。 ・本日から駅前保健室@Seisen を開設する ○今日の活動計画の話し合い ・飯山赤十字病院:ライフライン復旧確認 支援ニーズ確認 ・飯山市役所:災害対応について支援ニーズ確認 ☞昨日情報があつた福祉避難所のやすらぎの園より支援ニーズについて連絡あり、現在は支援スタッフの不足はない。今後、スタッフに不足があればボラセンボランティアセンターを通して要請を行う予定。 ☞清泉女学院の教員 20 名が支援活動を始める
10:10	・飯山赤十字病院へ出発 36 km 上越高速道路使用:須坂長野東~豊田飯山 ・道中:千曲川河川敷に氾濫後見受ける ・清泉女学院の教員と情報交換:今後の支援内容に必要となる・屋内の消毒方法について情報提供など ・飯山赤十字病院に到着前に車中より看護部長さんに到着連絡を行うも、会議があり連絡が取れず副部長さんより玄関で待機の指示あり

10:50	<p>飯山赤十字病院に到着</p> <p>玄関にて待機中 セキュリティガードマンより情報収集</p> <p>10月14日 AMにライフラインが復活</p> <p>10月15日通常業務再開</p> <p>新幹線の運休区間があり、登院できない医師がおられる</p>
11:00	<p>・副看護部長さんに挨拶、移動中、部長さん参加の会議が終了しお話を聞かせていただく</p> <p>その後、災害対策本部後を視察(写真1)</p> <p>12日の夜:長日勤の看護師が帰宅する時間に台風の風力を懸念し、勤務者に無理して帰宅せず病院に泊まるように指示。また、風力による家屋被害に対しレスパイト入院を引き受けるように院長指示があることを勤務者に伝達。</p> <p>13日</p> <p>○浸水状況及び対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の介護施設が腰当たりまで浸水、病院は50cmほど高い入りにあり正面玄関から浸水が始まった。 ・土嚢で対応するが浸水のスピードが速く早急の対応が必要となり足りず、土嚢の上に毛布を巻いて置き土嚢代わりとした。 ・医療機器は早くから別の場所に移動したが、眼科の機械は被害を受けた。 ・浸水のスピードが速く、現場の状況報告から本部より現場に指示を出していたがどこまで増水が進んでいくのかと不安の思いを抱きながらの対応であった。 <p>○衛生面の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の食器の清潔が保てず、使い捨ての食器を使い対応した。 ・下水処理が出来ず、トイレ・ポータブルトイレにナイロン袋+パッドで対応、吸痰処理にも困った ・CD 毒素感染者がいたため、手洗いが出来ず対応が困難となった。感染者が2名増加した。 ・看護職員もおむつで排泄を行った。 ・排泄におむつを使用していたため不足状態となった。電話連絡で業者に、おむつがあるだけ運送するように依頼、必要部署に本部から配布しながら物品管理を行った。 <p>○患者対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水が流せないため透析が出来なくなり、患者を近医に割り振る対応が必要となった。 ・入院患者のなかで透析を必要とする患者がいたため転送を行った。今後は本日も当院に戻ってくる予定である。 ・救急車対応は正面玄関浸水のため困難な状況であったが、日中は救急車の高さを利用し、浸水したなかをストレッチャーで患者受け入れを行った。夜間は危険であるため救急対応を中止した。 ・訪問看護を行っている自宅が被災したため、レスパイト入院を2名行っている。 ・入院中の方が死亡されたが夜間は霊安室で過ごしていただき、日中になりご自宅に帰られた(この場合も車の高さを利用して乗車した)。 ・訪問看護の利用者の安否確認に時間を要した。元来レスパイト入院を受け入れる体制が整っているため、今回の震災でもスピーディーに対応が行え、被害を受けた自宅の方を受け入れることにつながった。 <p>○避難所の救護班活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・390名に実施 ・入院を必要とする方もおられた。 <p>○職員対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部担当者は6時に招集。

	<p>その後、各所属の師長が連絡網で呼出し招集。地震であれば自主登院の取り決めがあるが、水害はないため対応に困った。今後の課題は、自主登院の想定を地震対応だけではなく、その他の災害についても設定していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内周辺は浸水の恐れがあったため、駅の立体駐車場を利用するなどして個人で対応を行い勤務された。 ・新幹線が運休のため登院できない医師がいる。事務の方が車で送迎を行う医師もいるが、休診とする科もあり、予約変更の対応を行った。 ・被害(停電・床上浸水による畳などの処分)あった職員もいて出勤できない方もおられる。職員間で支援できる方法を検討している。 ・被害があった職員より自宅が寒いとの情報があり、暖房器具をもっていくように伝えるが、停電によるものであり使用できないという返答であったとのこと。今後、気温が低くなっていく時期であり、自宅の建物はあっても室温が低いため健康障害の発生が危惧される。<u>支援者が行政に自宅で生活を送る住民の現状を把握できるように関わりを持つ必要がある。</u> ・災害急性期を乗り切った思いでいる。自病院は自立できている。今回の被害で近隣の病院に患者受け入れを要請したため、<u>自病院よりは周囲の医療機関のほうが対応に苦慮している</u>と考えておられ、自病院への支援の必要はない状況であるということであった。 <p>○地域住民について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老老世帯が多い地域である。<u>車が動かさない状況になり、食料の確保、浸水した家屋の処理が出来るのか不安に思う。</u> ・日本赤十字として活動を行う必要性を感じているが、<u>現状は自病院の勤務者のやりくりで精一杯で地域支援まで手が回らない。</u> ・市役所の管轄になるけれど、市役所は1階が浸水し機能している状態ではない。行政と確認を行いながら支援ニーズを把握して行ってほしい。 <p>○事務長さんと看護部長さんとの課題共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部を視察するにあたり、看護部長さんが事務長さんに確認を行うと本部に来てくださった。災害時の状況について「<u>水が出ないことの被害は想定していたが、水が流せないことの災害は想定していなかった。BCP マニュアルを見直していきたい</u>」と、言うお言葉から看護部長さんが、「<u>大変な災害対応でしたが、いろいろ考えることができました。今回の災害対応を振り返る時間をもっていきたい</u>」と、話され今後の備えにつながる対策の見直しについて共有された。
11:45	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山市役所担当者に電話連絡し行政対応状況を確認する。 ・飯山市の避難所は閉鎖した。 ・市役所の中が浸水し機能していない。現段階では、とても支援を受けいられる状態ではない。また、避難所にいた方の健康チェックは行っているが、<u>自宅で生活する方の健康チェックする体制はとれない。</u> ・ボランティアセンターを立ち上げたため、本部に確認して支援ニーズを確認してほしい。
12:00 13:00	<p>飯山市ボランティアセンター連絡し移動(飯山市勤労者体育館)</p> <p>道中:千曲川沿いを通過 浸水による復旧のため一般車両は通行禁止の回路表示(写真2)</p>
13:10	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山市ボランティアセンター到着 飯山市社協担当者より情報提供 ・開設期間:10/15-10/21(予定) ・本日受付は9:00-12:00 ・支援要望:24件(床上浸水対象) ・ボランティア人数:70名 <p>○開設の経緯</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・12日:台風接近 ・13日:さら川が逆流し飯山市内に浸水→<u>千曲・木島・おきわ地域が浸水(想定していない地域)</u> 避難所開設:岡山活性化センター ・14日:市民からのニーズはない状態で、床上・床下浸水を対象とした活動を目的に市よりボランティアセンター開設要望 ・15日:床上浸水対象で募集し開設(写真3) 本部:社協職員・青年会議所職員6名で実施 床上浸水の方の支援ニーズが少ないため床下浸水被害も本日から対象になる <p>○被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床上浸水:400件 ・床下浸水:200件 調査未の地域:とぎま・野沢温泉周囲 ・孤立地域:岡山・富倉・・・現在は孤立解消 ・停電:くわなが <p>○ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動前オリエンテーションは口頭で実施している ・活動終了後は活動報告書に記載していただく ・今後、週末にボランティアの増加が見込まれる⇒支援ニーズがあるかが課題 ・ボランティア活動後は水で洗うように準備し消毒の準備はない ・体育館入り口に食べ物を配布 <p>○ボランティアニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下浸水被害の方は14日が休日だったため行政に対応が終わったと報告 ・今後は支援ニーズが減少する傾向にある ・自宅で生活するかたの健康チェックについて、社協から区長に支援ニーズがある方を挙げてもらうように用紙を配布しているがあがってこない。また、社協として活動する方向性もない状況。 <p>○ボランティア参加者への支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の駐在がなく傷病者発生時の対応に使用する救急セットの薬品を確認してほしい。 ・看護・衛生面で心配がある。保健師などと連携して対応を行っていきたい。 ・<u>ボランティア参加者が浸水した家屋の支援後の衛生面の対応に関わってほしい。</u> ・<u>必要な薬剤が届いてないので持ってきてほしい。</u>
15:15	岡山活性化センターへ出発
15:45	岡山活性化センターに到着 避難所:半日で閉鎖
16:45	長野市に到着
17:20	市役所職員から明日、夕方の会議に出席するように要請を受ける
17:30	ボランティアセンター薬剤購入
18:45	清泉女学院に到着

21:00	ボランティア開始前パンフレット作成
24:00	うがい実施のためのちらし作成 長靴洗浄方法のちらし作成 クレゾール薬剤使用時注意に関するちらし作成

3. アセスメント・所感

清泉女学院大学では、小原先遣隊との話し合いから地元の大学が地元を支援する体制が整えられつつある。大学教員に必要な家屋消毒の方法について情報提供。教員間で役割を分担し取り組む方向性となる。今後、支援に対するモチベーションを維持できるように支援経験を振り返る場をもち、災害看護の意味づけを確認していけるような場づくりが必要であると考えられる。学会と地元大学による支援連携の関係性についても振り返り学会としての立ち位置を見出していく必要があると考えられた。

飯山市は、下水処理場が昨日復旧したものの、停電や浸水被害が復旧していない状況で避難所が閉鎖されている。病院へのレスパイト入院も行われているが、地域の健康チェックを行う行政が受け入れられる体制ではないため、ボランティアセンターのボランティア活動の参加者が安全(怪我など)かどうか確認を行いながら、自宅で生活する環境が健康障害を起こす環境にないかを確認する活動を取り入れ、自宅の生活環境の改善につながる活動につなげる必要があると考えられる。

また、ボランティア活動参加者の安全が確保できるように、ボランティア後の履物の消毒・うがい・手洗いの施行などの指導を参加者及びボランティアセンタースタッフが行えるように具体的な内容の資料を用い行う必要があると考える。

病院訪問では急性期を乗り切ったという言葉が聞かれているが、長期的に考えると浸水家屋の復旧には停電もあることから時間がかかると考えられる。被災を受けた職員が復旧作業に専念できるような勤務体制をとることが出来るように病院への看護職員への支援も視野に入れ、管理者のかたと関係性を保ち支援を受け入れていただける時期を見据え準備を行う必要がある。

長野県の地域性であるのか支援を受け入れることへの遠慮が伺える。災害救助法は災害直後の応急的な生活救済を行う法律である。しかし、ライフラインの復旧がまだできていない状況で避難所を閉鎖する行政の動きがある。今一度法律の内容を被災された方が理解できるような活動が必要ではないかと考えながら活動を行う一日であった。

今日は、被害が甚大な長野市穂保地域の調査が行えなかった。明日は早朝に飯山地区のボランティアセンターミーティングに参加し、ボランティア活動参加者の安全確認に行く予定であることを住民の方にお伝えして被災地域を巡回し、自宅生活の現状を把握していきたい。また、夕方は長野市保健所ミーティングに参加し、穂保地域の状況を把握することで、支援ニーズの把握に役立て支援活動につなげていきたい。

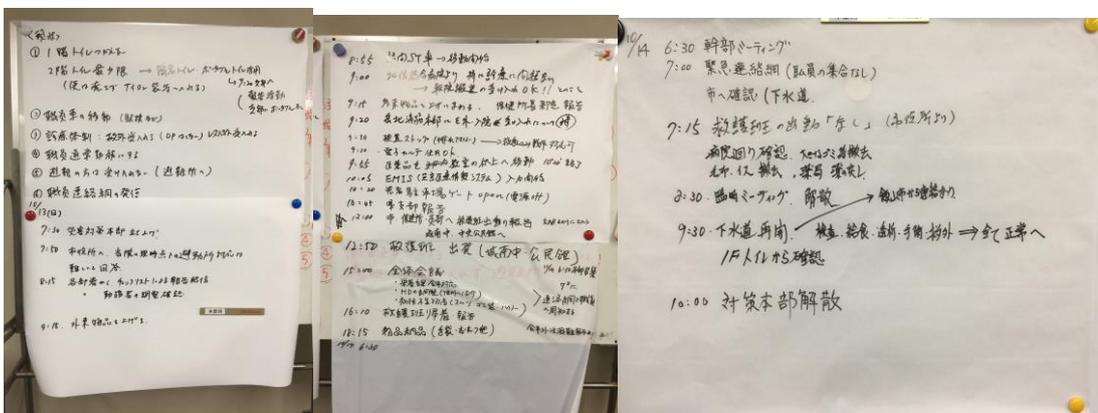


写真1. A 病院災害対策本部の記録



写真2. 自宅復旧のためう回路指示 写真奥は作業車が多い



写真3. ボランティアセンター